

こまどりケーブルからローカルな話題や
エリア情報などをお届けします



BIYORIのコンセプト

「遊び心でつながる」

村内の方と村外の方が良いご縁で繋がる
ことができる場所

BIYORIでできること

- ★コーヒーが飲める ★お仕事ができる
- ★打ち合わせができる
- ★イベントができる（要相談）
- ★サテライトオフィス（要相談）
※本拠地から離れた所に設置されたオフィス

コワーキングスペース

COWORKING SPACE

最近よく耳にする
こまどリエリアの豊かな自然あふれる環境にも、PCひとつで仕事ができる場所が
何力所かあります。下北山村の“BIYORI”もその中のひとつ。Wi-Fiやプリンター、
フリーキッチン、シャワーブースなどを完備し、仕事と遊びをシームレスに楽しめる
場所としての利用が広がっています。もちろんふらりと立ち寄って、近隣の情報
収集をしながらコーヒーを楽しむもよし。元々保育所だった施設が都市部の
子供たちを受け入れる山村留学施設となり、そしてそれを改修したオシャレな
空間です。下北山村役場の近く。機会があればぜひお立ち寄りください！

そもそも コワーキングスペース COWORKING SPACE って？

「CO(共同で)」「Working(仕事をする)」という言葉の通り、
さまざまな人たちが出入りして仕事をする共有型のオープン
なスペース。内閣府が推奨する“テレワーク”や、旅行をしながら
仕事をする“ワーケーション”にも最適な場所です。

今月は山と川に囲まれた
奈良の中で一番海に近い場所
下北山村の話題です



BIYORI 日和【びより】
仕事日和やおでかけ日和など“何をするにも
良い日”であるようにと願いを込めて



コワーキング 1日¥500
カフェ利用 ¥200～

住 奈良県吉野郡下北山村浦向24-1
営 9:00～17:00
休 土・日・月・祝
電 07468-9-0014

<https://ja-jp.facebook.com>

/SHIMOKITAYAMA.BIYORI



来てた
もれ～

おだやか
な山村

奈良で一番早くソメイヨシノの桜が咲く下北山村



きなり
の郷

下北山スポーツ公園の桜

下北山村は十津川村と並び、奈良県最南部に位置しています。奈良から熊野へ抜ける国道沿いに位置する「下北山スポーツ公園」の桜は、奈良県で一番早くから桜が楽しめる場所。国道から公園内に続く桜並木のトンネルは、車窓からお花見ドライブが楽しめます。公園を散策すると水辺の桜が水面に映り込み何とも言えない美しさ。毎年この時期にはスポーツ公園でさくら祭りが開催され、ステージイベントや物産展があり、多くの観光客と桜で村が華やぎます。



【お問い合わせ】

下北山村役場
地域創生推進室
☎ 07468-6-0001

<http://www.vill.shimokitayama.nara.jp/>



きなり館 で温泉 & おかいもの

お花見の頃は、花冷えの時期でもあり日によってはまだまだ寒いですね。公園敷地内には気軽に立ち寄れる日帰り温泉「きなりの湯」があります。緑に囲まれたお風呂は、入ってみたら納得のツルツル・スベスベ♪が女性に大人気！日頃の疲れを癒してくれます。

定番の春まなや
ジャバラ製品以外にも
いろいろあります♪

しっとりなめらか
美人の湯♪

自然の恵みをおみやげに

きなり館で買えます

- 南朝みそ
国産の大豆と塩に、村産の米麴を使い昔ながらの製法で作りました。ディップや田楽味噌にも。
- 百花蜜はちみつ
下北山村の様々な花の蜜を集めてひと瓶に。



春の妖精 ～スプリング・エフェメラル～

春先の散策で、野原に小さな花を見つけると嬉しいものですね。春の訪れを告げてくれる早春の山野草の中には「スプリング・エフェメラル(春の儂い命)」または「春の妖精」と呼ばれているものがあります。春先に花を咲かせ、夏まで葉をつけると後は地下で過ごし「夏の間は地上部が枯れる」のが特徴。代表的なものがカタクリの花です。その名の通り片栗粉が取れる植物。群生が見られることで有名なのが、宇陀市大宇陀地区の「森野旧薬園」。日本最古の私設薬草園として知られている所です。他にも室生向洲の公民館「やまびこホール」の裏山、奈良公園内の奈良春日野国際フォーラム 葦の庭園や葛城山、金剛山で見ることができます。カタクリの花は陽が射さない花びらを下に向けてラッパのような形をしているのですが、柔らかい春の日差しを浴びると、花びらを反り返らせうつむき加減に咲き、その姿はなんと可憐。群生しているとまるで森の妖精たちが羽を伸ばして遊んでいるように見えます。この花は種から7年目でようやく花を咲かせるそうです。そんなところも、けなげで守ってあげたいような花。万葉集ではカタクリを「堅香子(かたかご)」として、選者の大伴家持が詠んでいます。4500首以上ある歌の中で、カタクリが登場するのはたった一首です。地域によっては天然記念物に指定され、なかなか目にできないこともあって、根強い人気がある花です。 μ



「かたかご」
カタクリ

